

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-16714
(P2002-16714A)

(43) 公開日 平成14年1月18日 (2002.1.18)

(51) IntCl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード* (参考)
H 0 4 M 9/00		H 0 4 M 9/00	H 5 C 0 8 7
G 0 8 B 25/04		G 0 8 B 25/04	J 5 K 0 3 8
H 0 4 Q 9/00	3 0 1	H 0 4 Q 9/00	3 0 1 C 5 K 0 4 8
	3 1 1		3 1 1 J

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願2000-195038 (P2000-195038)

(22) 出願日 平成12年6月28日 (2000.6.28)

(71) 出願人 000005832

松下電工株式会社

大阪府門真市大字門真1048番地

(72) 発明者 上田 毅

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

(72) 発明者 田中 敏明

大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

(74) 代理人 100087664

弁理士 中井 宏行

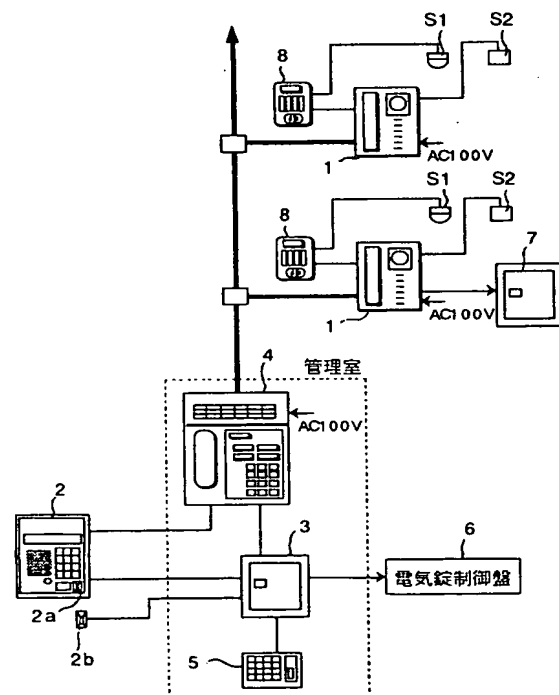
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 集合住宅監視システム

(57) 【要約】

【課題】 集合住宅において、各住戸で、家族の誰が帰宅したのかがすぐに分かるようにする。

【解決手段】 共同玄関に個人識別装置 2 a, 3 を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤 1 を設置する。住宅情報盤 1 は、予めその住戸の住人の各々に対応した音を設定する。個人識別装置 2 a, 3 は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤 1 に個人情報を送信する一方、住宅情報盤 1 は、個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された音を出力する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】共同玄関に個人識別装置を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤を設置した構成の集合住宅監視システムであって、

上記住宅情報盤は、予めその住戸の住人の各々に対応した音を設定しており、

上記個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に個人情報を送信する一方、

上記住宅情報盤は、上記個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された音を出力することを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 2】共同玄関に個人識別装置を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤を設置した構成の集合住宅監視システムであって、

上記住宅情報盤は、予めその住戸の住人の各々に対応した表示を設定しており、

上記個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に個人情報を送信する一方、

上記住宅情報盤は、上記個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された表示を行うことを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 3】請求項 1 に記載の住宅情報盤は、その住戸の住人の各々に対応した音が、外部からの入力により録音できることを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 4】請求項 2 に記載の住宅情報盤は、その住戸の住人の各々に対応した表示内容が、外部からの入力により登録できることを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 5】請求項 1 ～請求項 4 のいずれかに記載の個人識別装置は、共同玄関の電気錠を制御する電気錠制御盤を接続しており、

上記個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、上記電気錠制御盤に解錠信号を送信して、共同玄関の電気錠を解錠させることを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 6】請求項 1 ～請求項 4 のいずれかに記載の住宅情報盤は、各住戸の生活情報を監視する監視機器を接続しており、

上記個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に監視開始信号を送信して、生活情報の監視を開始させることを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 7】請求項 1 ～請求項 6 のいずれかに記載の個人識別装置は、各住戸の在／不在を管理する在／不在管理装置を接続しており、

上記個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、上記在／不在管理装置に在信号を送信して、その住戸の在表示を行わせることを特徴とする集合住宅

監視システム。

【請求項 8】請求項 1 ～請求項 7 のいずれかに記載の集合住宅監視システムは、共同玄関の内側に第 2 個人識別装置を更に設置し、上記住宅情報盤は、各住戸の生活情報を監視する監視機器を接続しており、

上記第 2 個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸のすべての住人を識別した場合は、その住戸の住宅情報盤に監視終了信号を送信して、生活情報の監視を終了させることを特徴とする集合住宅監視システム。

【請求項 9】請求項 1 ～請求項 7 のいずれかに記載の集合住宅監視システムは、共同玄関の内側に第 2 個人識別装置を更に設置し、この第 2 個人識別装置は、各住戸の在／不在を管理する在／不在管理装置を接続しており、上記第 2 個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸のすべての住人を識別した場合は、上記在／不在管理装置に不在信号を送信して、その住戸の不在表示を行わせることを特徴とする集合住宅監視システム。

20 **【発明の詳細な説明】**

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、共同玄関に、指紋などによって個人を識別する装置を設置した構成の集合住宅監視システムに関する。

【0002】

【従来の技術】従来から、マンションなどの集合住宅には、監視システムが導入されている。各住戸には、火災感知器、ガス漏れ検知器、防犯センサなどのセキュリティ機器を接続した住宅情報盤を設置する一方、管理室や警備室には、警報監視盤を設置して監視システムを構成する。例えば、いずれかの住戸において、火災の発生を検知すると、住宅情報盤は、警報監視盤に火災信号を送信する。すると、警報監視盤では、警報音出力や警報表示を行うとともに、防排煙機器などを連動制御する。

【0003】また、集合住宅監視システムでは、インターホン通話機能を備えている。共同玄関に設置されたロビーインターホンから、住戸を指定した呼出操作をする、ロビーインターホンと、呼び出された住宅情報盤との間で通話ができるようになる。住宅情報盤では、通話中に所定の解錠操作を行えば、共同玄関の電気錠を解錠することができる。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】ところが、上記従来の集合住宅監視システムでは、外出先から帰宅した住人が、住戸内にいる人に、帰宅したことを知らせる場合には、以下のような問題があった。

【0005】帰宅した人が、ロビーインターホンや住戸の玄関先に設置されたドアホン子器からの呼出操作によって、住戸内の住宅情報盤を呼び出した場合、住戸内の人は、住宅情報盤の設置場所にまで移動する必要があ

り、通話をしたり、モニタテレビに映し出される画像を確認する必要があった。そのため、帰宅した人は、住戸内の人の確認が終了するまでの間、戸外で待つ必要があり、無駄な時間を費やしていた。

【0006】玄関先に、来客用の呼出ボタンとは別に家族用ボタンを設け、帰宅した家族はそのボタンを操作するようにしてもよいが、そのような構成にしても、住宅情報盤は、そのボタンが操作されたことを示す音色のチャイム音の出力ができるのみであり、家族の誰が帰宅したのかまでは分からない。

【0007】本発明は、このような事情を考慮してなされたものであり、集合住宅において、各住戸で、家族の誰が帰宅したのかすぐに分かるようにしたシステムを提供することを目的としている。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の請求項1に記載の集合住宅監視システムは、共同玄関に個人識別装置を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤を設置して構成される。ここに、個人識別装置には、指紋や、眼の網膜や虹彩などの照合装置の他に、非接触キーやICカードの照合装置などがある。

【0009】住宅情報盤は、予めその住戸の住人の各々に対応した音を設定している。例えば、予め登録されているチャイム音や音声メッセージの中から、各人が1つの音を選択する。

【0010】個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に個人情報を送信する一方、住宅情報盤は、個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された音を出力する。

【0011】請求項2では、住宅情報盤は、予めその住戸の住人の各々に対応した表示を設定している。例えば、複数の表示灯や、予め登録されている画像の中から、各人が1つの表示を選択する。

【0012】個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に個人情報を送信する一方、住宅情報盤は、個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された表示を行う。

【0013】請求項3では、請求項1に記載の住宅情報盤は、その住戸の住人の各々に対応した音が、外部からの入力により録音できる。例えば、マイクからその人の音声を入力したり、接続端子にオーディオ機器を接続して音楽を入力することができる。

【0014】請求項4では、請求項2に記載の住宅情報盤は、その住戸の住人の各々に対応した表示内容が、外部からの入力により登録できる。例えば、接続端子にデジタルカメラを接続して、撮像したその人の顔の画像を入力したり、携帯端末を接続して文字などを入力することができる。

【0015】請求項5では、請求項1～請求項4のいずれかに記載の個人識別装置は、共同玄関の電気錠を制御

する電気錠制御盤を接続しており、個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、電気錠制御盤に解錠信号を送信して、共同玄関の電気錠を解錠させる。

【0016】請求項6では、請求項1～請求項4のいずれかに記載の住宅情報盤は、各住戸の生活情報を監視する監視機器を接続しており、個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤に監視開始信号を送信して、生活情報の監視を開始させる。ここに、生活情報の監視機器には、人体の移動を検知するセンサ、電気や水道の使用状況をセンサなどがある。個人識別装置は、その住戸のすべての家族が不在であった状態から、1人目の家族が帰宅したときのみ、その住戸の生活情報の監視を開始させるようにしてもよい。

【0017】請求項7では、請求項1～請求項6のいずれかに記載の個人識別装置は、各住戸の在／不在を管理する在／不在管理装置を接続しており、個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、在／不在管理装置に在信号を送信して、その住戸の在表示を行わせる。個人識別装置は、その住戸のすべての家族が不在であった状態から、1人目の家族が帰宅したときのみ、その住戸に対する在信号を送信するようにしてもよい。

【0018】請求項8では、請求項1～請求項7のいずれかに記載の集合住宅監視システムにおいて、共同玄関の内側に第2個人識別装置を更に設置し、住宅情報盤は、各住戸の生活情報を監視する監視機器を接続している。ここに第2個人識別装置とは、住人が外出するとき、その住人を識別するための装置である。

【0019】第2個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸のすべての住人を識別した場合は、その住戸の住宅情報盤に監視終了信号を送信して、生活情報の監視を終了させる。

【0020】請求項9では、請求項1～請求項7のいずれかに記載の集合住宅監視システムにおいて、共同玄関の内側に第2個人識別装置を更に設置し、この第2個人識別装置は、各住戸の在／不在を管理する在／不在管理装置を接続している。

【0021】第2個人識別装置は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸のすべての住人を識別した場合は、在／不在管理装置に不在信号を送信して、その住戸の不在表示を行わせる。

【0022】

【発明の実施の形態】以下に、本発明の実施の形態について、図面とともに説明する。図1は、集合住宅監視システムの構成の一例を示した図である。集合住宅監視システムでは、共同玄関に個人識別装置を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤1を設置する。ここでは、個人識別装置として、ロビーインターホン2に指紋照合装置2

aを内蔵するとともに、管理室に指紋照合制御装置3を設置している。なお、個人識別装置は、指紋を照合する装置には限定されず、カメラで撮像した眼の画像を基にして網膜や虹彩などの模様や色を照合する装置や、非接触キーやICカードによる照合装置であってもよい。

【0023】また、ここでは、共同玄関の内側に、第2個人識別装置として指紋照合装置2bを設置している。この指紋照合装置2bは、住人が集合住宅から退出するときに、指紋を読み取らせるものである。

【0024】指紋照合制御装置3には、指紋データ登録装置5を接続しており、予め、この指紋データ登録装置5によって、原則、全住戸のすべての住人の指紋データを読み取って、登録している。指紋照合制御装置3は、指紋照合装置2a、2bによって指紋データを読み取ると、予め登録した指紋データの中に一致するものがあるかを検索し、一致するものがあれば、その指紋データの個人情報(ID信号)を、警報監視盤4に対して送出する。なお、個人情報には、少なくとも、住戸と個人とが特定できる情報が含まれている。

【0025】管理室に設置された警報監視盤4は、各住戸の住宅情報盤1を接続して、各住戸のセキュリティ監視を行うとともに、ロビーインターホン2と各住戸の住宅情報盤1とのインターホン通話、この警報監視盤4と各住戸の住宅情報盤1とのインターホン通話を制御する。

【0026】各住戸は、住宅情報盤1を設置しており、住宅情報盤1には、住戸玄関に設置されたドアホン子器8を接続している。住宅情報盤1は、ドアホン子器8からの呼出ボタンの操作による呼出によって、ドアホン子器8との間でインターホン通話を行う。また、住宅情報盤1には、住戸玄関の電気錠を制御する住戸電気錠制御盤7を接続しており、所定の操作によって、電気錠の施解錠を行う。

【0027】住宅情報盤1は、火災感知器S1を接続しており、火災監視を行っている。ここでは、火災感知器S1はドアホン子器8を介して接続されており、ドアホン子器8に試験器を接続すれば、戸外からの火災試験が可能になっている。なお、セキュリティ機器には、火災感知器S1の他に、ガス漏れ検知器、防犯センサなどがあり、非常事態になったときに操作する緊急ボタンなども含まれる。

【0028】また、住宅情報盤1は、各住戸の生活情報を監視する監視機器として、人体検知センサS2を接続している。住宅情報盤1は、監視モードになっているときに、人体検知センサS2が所定時間の間、人体の動きを検知しなかったときには、住人が急病などで倒れていると判断して、異常発生信号を警報監視盤4に対して送信する。なお、生活情報の監視機器には、人体検知センサS2の他、生活リズムが保たれているかを判断するための、電気や水道の使用を検知するセンサなども含まれ

る。

【0029】本発明では、住宅情報盤1は、予めその住戸の住人の各々に対応した音を設定している。例えば、予め登録されているチャイム音や音声メッセージの中から、各人が1つの音を選択している。

【0030】指紋照合制御装置3は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤1に個人情報を送信する。これに対して、住宅情報盤1は、個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された音を出力する。

【0031】具体的には、指紋照合制御装置3は、指紋照合装置2aで読み取った指紋データと一致するデータを登録していれば、警報監視盤4に対して、帰宅した住人のデータを送出する。警報監視盤4は、その住人の住戸に対して、住人のデータを送出し、これを受けた住宅情報盤1では、そのデータを基に、その人に対応した音を出力する。また、指紋照合制御装置3は、住人を識別したときには、電気錠制御盤6に解錠信号を送出し、共同玄関の電気錠を解錠させ、帰宅した住人が、解錠操作をしないで集合住宅内に入れるようにしている。

【0032】このような構成によって、外出先から帰宅した住人は、指紋照合装置2aに指紋を読み取らせるだけで、住戸内にいる人に、帰宅したことを知らせることができる。また、住戸内にいる人が応答するまで待つ必要もなくなる。一方の住戸内にいる人は、住宅情報盤で通話したり、モニタテレビに映し出される画像を確認しなくても、出力される音によって、帰宅した人を特定できる。例えば、帰宅した人が、高齢者や身障者と特定できれば、介添えのため、家族が出迎えに行くことができる。

【0033】また、本発明システムでは、住宅情報盤1は、帰宅した人に対応した表示をすることもできる。その場合、住宅情報盤1は、予めその住戸の住人の各々に対応した表示を設定しておく。例えば、複数の表示灯や、予め登録されている画像の中から、各人が1つの表示を選択する。

【0034】指紋照合制御装置3は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤1に個人情報を送信する。住宅情報盤1は、個人情報を受信したときには、その住人に対応して設定された表示を行う。

【0035】図2には、集合住宅監視システムの要部構成をブロック図で示している。住宅情報盤1は、CPUなどで構成され各部を制御する制御部10と、予めその住戸の住人の各々に対応した音や表示のデータを蓄積した蓄積部11と、蓄積した音を出力するためのアンプ回路12及びスピーカ13と、マイク15から入力された音をデジタル化して蓄積するためのDSP14と、入力端子16を備える。

【0036】このように、住宅情報盤1は、その住戸の

住人の各々に対応した音が、外部からの入力により録音できるようになっている。例えば、マイク15からその人の音声を入力したり、入力端子16にオーディオ機器を接続して音楽を入力することができる。したがって、音源として、CD、MD、カセットテープなど様々なものが使用できる。これによって、各住人の好きな音が録音でき、メロディなどの違いによって各住人を識別しやすくなる。

【0037】また、住宅情報盤1は、その住戸の住人の各々に対応した表示内容が、外部からの入力により登録できる。例えば、入力端子16にデジタルカメラを接続して、撮像したその人の顔の画像を入力したり、携帯端末を接続して文字などを入力する。

【0038】住宅情報盤1に接続されたドアホン子器8には、呼出ボタン81やマイク82などを備える。住戸電気錠制御装置7は、住宅情報盤1からの制御信号によって、住戸玄関の電気錠7aを施解錠する。

【0039】ロビーインターホン2は、警報監視盤4の制御部40に接続されるインターホン回路20と、内蔵した指紋照合装置2aと、指紋照合装置2aと指紋照合制御装置3とを接続するインターフェイス回路21と、指紋照合結果などを表示する表示灯22とを備えている。

【0040】指紋照合制御装置3は、指紋データ照合部30によって、指紋照合装置2aから送出されてきた指紋データと、指紋データ蓄積部31に蓄積されたデータとを比較する。一致するものがあれば、指紋データ照合部30は、予めその指紋データに対応して登録されている個人情報を用いてID信号として、警報監視盤4に対して送出する。

【0041】また、指紋照合制御装置3は、共同玄関の電気錠を制御（オートロック制御）する電気錠制御盤6を接続しており、いずれかの住戸の住人を識別したときには、電気錠制御盤6に解錠信号を送信して、共同玄関の電気錠を解錠させる。

【0042】図3には、上記したシステムの動作をフローチャートで示している。ここには、指紋照合制御装置3と住宅情報盤1の動作のみを示している。指紋照合制御装置3は、指紋照合装置2aから指紋データを受信し、蓄積した指紋データと照合した結果、一致するものがあれば、ID信号を送信するとともに、共同玄関の電気錠を解錠させる。一方、指紋データの照合の結果、一致するものがなければ、ロビーインターホン2に対してエラー通知を行い、表示灯22を点滅させたりする（以上、100～105）。

【0043】一方の住宅情報盤1は、警報監視盤4を介して、ID信号を受信すると、蓄積部11を検索し、受信したID信号に対応した報知音を出力するとともに、ID信号に対応した表示を行う（以上、110～113）。

【0044】次に、本発明システムにおける、各住戸の生活情報監視、在／不在管理について説明する。住宅情報盤1は、各住戸の生活情報を監視するため、人体検知センサS2などの監視機器を接続しているため、指紋照合制御装置3は、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸の住宅情報盤1に監視開始信号を送信し、生活情報の監視を開始させる。

【0045】また、指紋照合制御装置3は、各住戸の在／不在を管理する在／不在管理装置を接続しており、いずれかの住戸の住人を識別したときには、在／不在管理装置に在信号を送信して、その住戸の在表示を行わせる。図1や図2の構成では、警報監視盤4が在／不在管理装置の役割を果たしている。在／不在管理装置は、寮や、独り暮らしの老人が主に入居するシルバーマンションなどで、各室の在室状況の管理に用いられる。なお、在／不在管理装置を別の装置として構成し、指紋照合制御装置3と直接接続したり、警報監視盤4に付加接続するようにしてもよい。

【0046】一方、指紋照合制御装置3は、共同玄関の内側に設けられた指紋照合装置2bでの指紋データの読み取りによって、いずれかの住戸の住人を識別したときには、その住戸のすべての住人を識別した場合は、その住戸の住宅情報盤1に監視終了信号を送信して、生活情報の監視を終了させる。また、在／不在管理装置に不在信号を送信して、その住戸の不在表示を行わせる。

【0047】ここでは、集合住宅への進入時は、ロビーインターホン2に内蔵された指紋照合装置2aを用いて個人を識別し、集合住宅からの退出時は、集合玄関の内側に設置された指紋照合装置2bを用いて個人を識別する場合を説明したが、退出時にも、ロビーインターホン2の指紋照合装置2aを用いるようにしてもよい。その場合、ロビーインターホン2において所定の操作を行い、操作モードを変更してから、指紋データを読み取らせる。

【0048】図4は、警報監視盤4の動作をフローチャートを用いて示している。図4(a)は、ある住人の集合住宅への進入時の動作である。指紋照合装置2aでの指紋データの読み取りにより、指紋照合制御装置3からID信号を受信すれば、その住人の住戸情報を検索し、該当する住戸にID信号を送信する。その住戸の住人が全員不在状態であれば、1人目が帰宅したので、住戸情報に在情報を設定し、その住戸を在表示に切り替える。また、その住戸の住宅情報盤1に監視開始信号を送信して、人体検知センサS2などによる生活情報の監視を開始させる（以上、200～205）。なお、警報監視盤4は、1人目の帰宅の場合は、住戸内には、まだ誰もいないので、住宅情報盤1では、音の出力を行わないように制御してもよい。

【0049】図4(b)は、ある住人の集合住宅からの退出時の動作である。指紋照合装置2bでの指紋データ

の読み取りにより、指紋照合制御装置 3 から ID 信号を受信すれば、その住人の住戸情報を検索する。その住戸の住人が全員退出することになる場合は、住戸情報に不在情報を設定し、その住戸を不在表示に切り替える。また、その住戸の住宅情報盤 1 に監視終了信号を送信して、人体検知センサ S 2 などによる生活情報の監視を終了させる。これによって、その住戸において、全員が不在であるときに、住宅情報盤 1 が誤って異常が発生したと判断することがない（以上、210～215）。

【0050】このように、本発明の集合住宅監視システムでは、各住戸の各住人毎の在／不在管理が可能になるため、従来、各住戸に設けられていた在室管理錠が不要になり、個人識別によって、各住戸の生活情報監視のモード変更が制御できるようになる。

【0051】以上には、マンションなどの集合住宅について説明したが、戸建住宅においても同じような構成にすることができる。その場合、住宅の玄関口に個人識別装置を設置する一方、各住戸内に住宅情報盤（インターホン装置）を設置する。住宅情報盤は、予めその住戸の住人の各々に対応した音や表示を登録しており、個人識別装置から個人情報を受信したときに、その住人に対応して設定された音を出力したり、表示を行う。また、個人識別装置に、住戸玄関の電気錠を制御する電気錠制御盤を接続し、いずれかの住人を識別したときには、電気錠制御盤に解錠信号を送信して、玄関の電気錠を解錠させる。また、住人の識別に連動して、警備会社などによる生活異常監視機能のオンオフ制御もすることができる。

【0052】

【発明の効果】以上の説明からも理解できるように、本発明の請求項 1 に記載の集合住宅監視システムでは、外出先から帰宅した住人は、個人識別装置による識別操作をするだけで、住戸内にいる人に、帰宅したことを知らせることができる。また、住戸内にいる人が応答するまで待つ必要もなくなる。一方の住戸内にいる人は、住宅情報盤によって通話したり、モニタテレビに映し出される画像を確認しなくても、出力される音によって、帰宅した人を特定することができる。

【0053】請求項 2 に記載の集合住宅監視システムでは、外出先から帰宅した住人は、個人識別装置による識別操作をするだけで、住戸内にいる人に、帰宅したことを知らせることができる。また、住戸内にいる人が応答するまで待つ必要がなくなる。一方の住戸内にいる人

は、住宅情報盤によって通話したり、モニタテレビに映し出される画像を確認しなくても、表示によって、帰宅した人を特定することができる。

【0054】請求項 3 では、住宅情報盤に、住人の各々に対応した音が、任意に録音できる。請求項 4 では、住宅情報盤に、住人の各々に対応した表示内容が、任意に登録できる。請求項 5 では、外出先から帰宅した住人が、個人識別装置による識別操作をすれば、共同玄関の電気錠を解錠できる。

【0055】請求項 6 では、外出先から帰宅した住人が、個人識別装置による識別操作をすれば、その住戸の生活情報の監視を開始させることができる。請求項 7 では、外出先から帰宅した住人が、個人識別装置による識別操作をすれば、在／不在管理装置に、その住戸の在表示を行わせることができる。

【0056】請求項 8 では、最後に外出する住人が、個人識別装置による識別操作をすれば、その住戸の生活情報の監視を終了させることができる。請求項 9 では、最後に外出する住人が、個人識別装置による識別操作をすれば、在／不在管理装置に、その住戸の不在表示を行わせることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の集合住宅監視システムの構成の一例を示す図である。

【図 2】本発明の集合住宅監視システムの要部構成の一例を示すブロック図である。

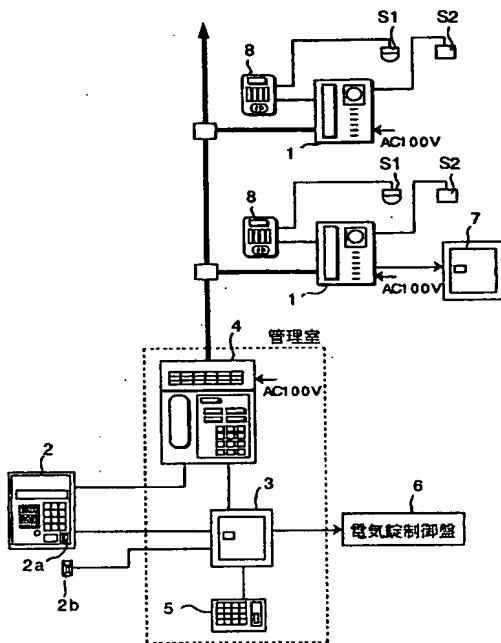
【図 3】本発明の集合住宅監視システムの動作の一例を示すフローチャートである。

【図 4】警報監視盤の動作の例を示すフローチャートである。

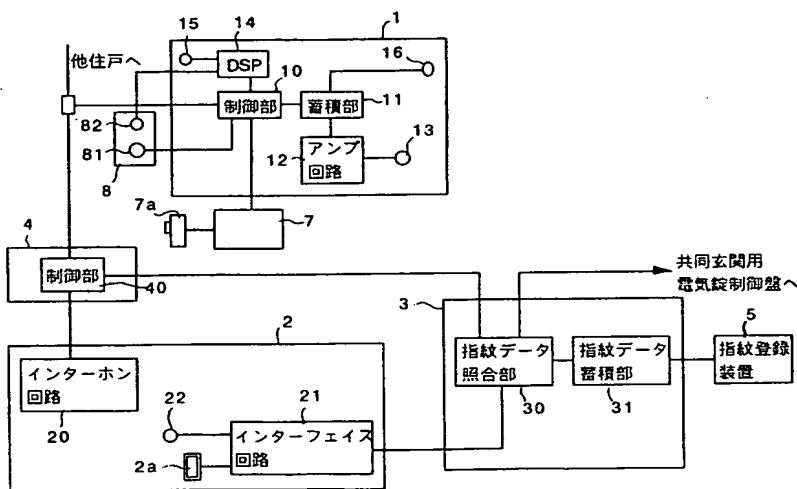
【符号の説明】

1	住宅情報盤
2	ロビーインターホン
2 a, 2 b	指紋照合装置
3	指紋照合制御装置
4	警報監視盤
5	指紋データ登録装置
6	電気錠制御盤
7	住戸電気錠制御盤
8	ドアホン子器
S 1	火災感知器
S 2	人体検知センサ

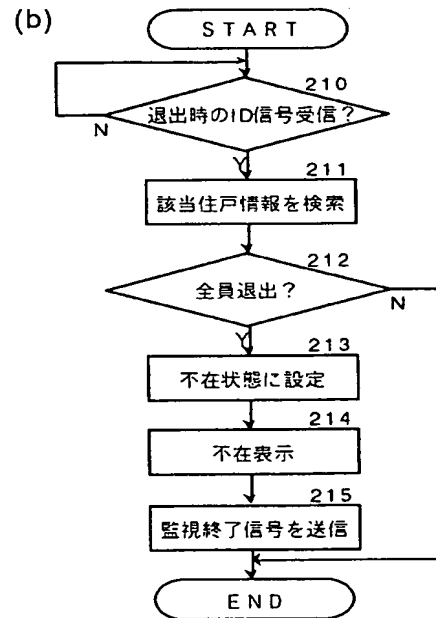
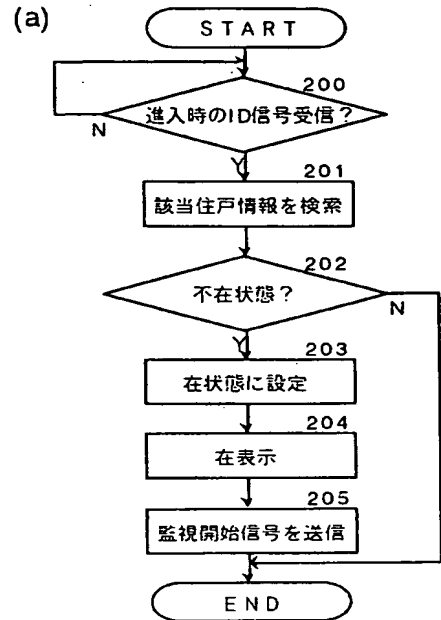
【図1】



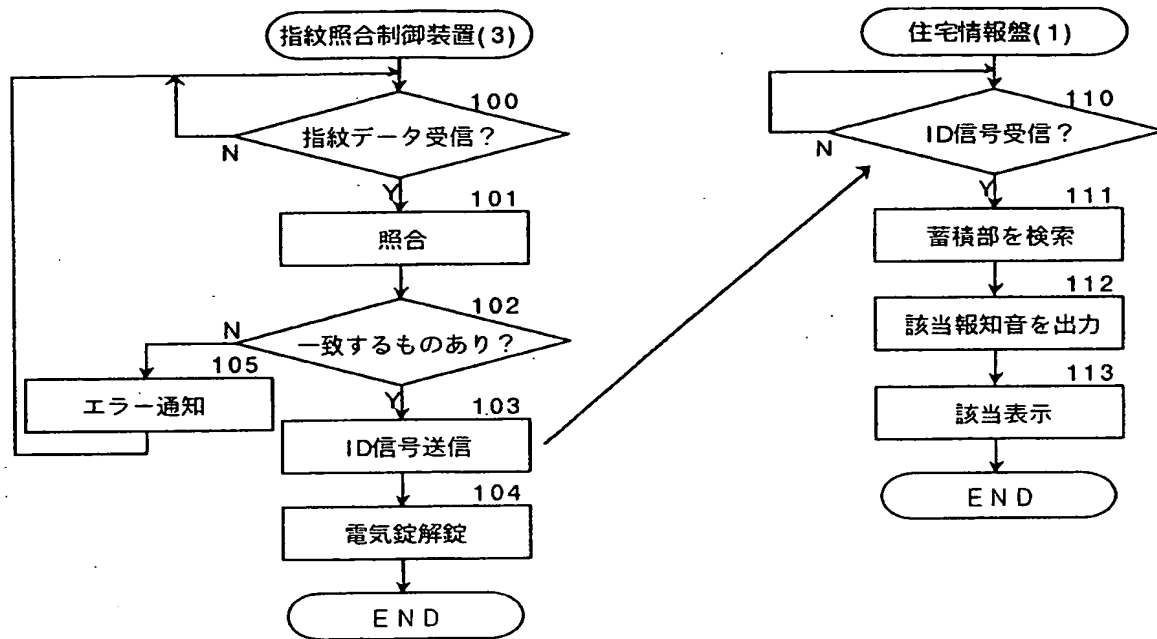
【図2】



【図4】



【図3】



フロントページの続き

(72)発明者 久松 伸夫
 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工
 株式会社内
 (72)発明者 妹尾 純二
 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工
 株式会社内

Fターム(参考) 5C087 AA02 AA19 AA32 BB77 DD03
 DD26 EE05 FF01 FF04 GG28
 GG66 GG70 GG83
 5K038 AA06 CC10 DD18 EE02 GG02
 GG06
 5K048 AA04 BA12 BA51 BA52 CA08
 DA02 DC04 EA11 EB02 EB14
 EB15 FB08 FB11 FC01 GC03
 HA01 HA02 HA05 HA07